

さくら

題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 宮崎 十三
編集 広報委員会
発行日 2016年11月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870

目次

全員研修会	2
会長協議会夏季懇親会	3
赤い羽根共同募金	4
「地域を訪ねて」シリーズ	5
老後を考える シリーズ	6
子どもたちは いま	7
追悼 編集後記	8



千寿常東小 3年 魚住葉月 作 「こそだてを がんばる お父さん」

私が歩んだ 39 年と民生委員制度創設 100 周年を想う

会長 宮崎 十三



生活困窮者救済のために創設された民生委員制度も、来年で 100 周年を迎えます。戦後 70 年を過ぎた現在、国民の暮らしは物質的には豊か

になりました。私は幼い時に父を亡くし、苦勞する母の背中を見て育ちました。努力して、母親に楽をさせたい、その一念で勉学に励み、資格を取得し、この足立区で開業することが出来ました。

その後結婚、子どもの誕生と歳月が流れ、そろそろ町会のお役にもと声がかかるようになった若干 36 歳の私に、町会長と近くの住職から、民生委員にとの話が飛び込みました。若輩者の身でとんでもない、もっとふさわしい方にと何度もお断りしました。しかし、若い君にこそ民生委員になって欲しいとの強い懇願を受け、お引き受けしました。退任の年を迎え、私の民生委員としての歩んだ 39 年が、100 年の内の 39 年と思うと、感慨深いものがあります。

民生委員になった当初は、担当の世帯を訪問するにも、近所の目があるから日が暮れてからにしてくれとか、民生委員と名乗らないでくれなど、国のお世話になるのは恥ずかしいという感覚を皆さんお持ちでした。生活保護適正化推進協議会で答申を出した通り、不正は厳しく正す必要がありますが、受給者の皆さんが身を小さくしなければならぬ昨今の風潮には、民生委員として疑問を感じます。

私の任期中の 39 年間に、足立区民児協も大きく変革しました。中田特別顧問の 12 年間のすばらしい足跡を引継いで役目を務めた今は、肩の荷を下ろした心持ちです。民児協活動の一つの柱である、行政への意見具申については、足立区の民児協は、東京一、いや日本一、物申す協議会だと皆さん胸を張ってください。

100 周年記念誌も、そろそろ骨格がはっきりしてきました。足立区民児協らしい記念誌を作り上げ、来年 8 月の式典で皆様にお披露目できるよう、全力を尽くす所存です。皆様、引き続き応援をお願いいたします。



8月4日 民生・児童委員 全員研修会



今年の全員研修会は、8月4日午後1時から例年通り西新井文化ホールで開かれました。

近藤区長、高山区議会議長、協力いただいている諸団体、行政機関、さらに福田東京都民生児童委員連合会会長をはじめ8区9市の民生・児童委員協議会の代表の皆様にご出席いただき、労いと励ましの言葉が寄せられました。

オープニングのアトラクションは、豊島区民生・児童委員協議会混声合唱団『みみずく』のコーラスにより「小さな空」「しあわせ運べるように」「この街で」の3曲が披露され、美しい歌声が会場いっぱいに広がりました。



▲金子教授による講演

来年は民生委員制度創設100周年を迎えるにあたり、ルーテル学院大学の金子和夫先生から『民生委員制度の「これまで」と「これから」』について講演がありました。

大正6年(1917年)岡山県の「済世顧問制度」の歴史を学び、特に高度経済成長以降の社会の変化から①地域における福祉課題の多様化、②民生・児童委員のはたらき、③民生・児童委員活動の3つの視点でこれまでを振り返りました。

そしてこれからの展望として、①家庭内で見えない問題が増加すること、②仲間をつくる地域のつながり



▲豊島区民生・児童委員協議会「みみずく」の皆さん

が必要なこと、③民生・児童委員が「街のかかりつけ医」になるためにどうしたらいいか、具体的事例や社会的出来事も示し、ジョークも交えながら分かりやすくお話いただきました。

平均寿命が長くても健康寿命が短い、所得格差、少子化社会等地域に多様な課題があることは、委員活動を通して私たちが実感している事でした。今回の研修を受け、より気の引き締まる思いがしました。

(3地区 秋葉千秋 記)



▲都民連マスコットキャラクター ミンジーのグッズを販売する小島会長・堀井会長・森会長

会長協議会 視察研修

6月3、4日の会長協議会視察研修は、自然豊かな「中伊豆リハビリテーションセンター(社会福祉法人農協共済)」を訪問しました。平成22年に建て替えられた建物は、車椅子でも楽々とすれ違える廊下、広々とした訓練室等、明るくゆったりと造られていました。

この施設の特徴は、医療、福祉、在宅の3部門を有し、それらが連携してリハビリを必要としている方々の社会復帰をサポートしていることです。

ロボットスーツや、3次元動作解析装置を使った理

学療法、自動車シミュレーターを使った作業療法等々、最新の機材をそろえています。

また、施設内には障がい者の就労支援のためのクリーニング事業、喫茶事業があります。みなさんそこで一生懸命働いていました。ただ、ここから民間への就職は年に1人か2人とのことで、大変残念に思いました。

身体障がい者の機能回復、社会復帰へ取り組んでいる371人の職員の真摯な姿に感動した1日でした。

(広報委員長 秋本雅信 記)



会長協議会 夏季懇親会



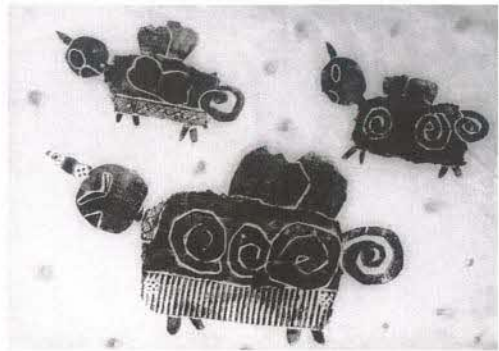
8月4日（木）全員研修会後の夕刻、晩夏の暑さの余韻の中、フラールガーデン東京で会長協議会主催の夏季懇親会が多くのお客様を迎えて行われました。

近藤区長、高山区議会議長、区議会議員、各消防署長、東京都民生児童委員連合会、行政等各方面の皆様より心強い励ましと温かいお褒めの言葉を頂戴し、和やかな雰囲気。中田貢弘社会福祉協議会会長の一言一言にも足立区民児協の歴史と重みがにじみます。

福祉の基本は人と人とのつながり。会場内の各テーブルで笑顔の輪が広がります。このつながりこそが私達の日頃の活動の原点なのだとすることを改めてかみしめたひとときでした。

「思いやり 差し出すその手は温かく 地域の人を結びます」100周年記念キャッチコピーの心意気にも通じるものを感じました。

（竹の塚地区 小島千恵子 記）



千寿桜小 3年 新井美羽 作 「はじめてとべたよ！」

100周年キャッチコピー決定！！

「思いやり 差し出すその手は温かく 地域の人を結びます」

— 平成29年に民生委員制度100周年・児童委員制度70周年を迎えます —

民生委員制度100周年に向け、足立区民生・児童委員協議会のキャッチコピーを募集しました。応募総数57作品の中から、会長協議会での投票により、最優秀賞は第六合同15地区 高波国男委員の作品に決定いたしました！

皆様のご協力ありがとうございました。



▲高波国男 委員

全員研修会にて「さくら」アンケートを実施しました

回答者数：319名

Q 「さくら」の印象について

	良い	まあ良い	ふつう	やや悪い	悪い	無回答
全体の印象	26.6%	49.8%	21.6%	0.0%	0.0%	1.9%
前回の印象との比較	21.6%	43.6%	28.8%	0.0%	0.0%	6.0%
読みやすさ	32.3%	42.9%	23.2%	0.9%	0.0%	0.6%
文字の大きさ	33.9%	35.4%	27.0%	2.8%	0.0%	0.9%
小・中学生の作品	37.0%	41.1%	16.0%	1.3%	0.0%	4.7%

※小数点二位以下四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

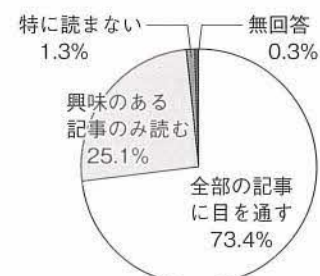
すべての項目で、「良い」「まあ良い」を合わせた『良い』が過半数を占めました。

特に小・中学生の作品については毎回好評です。

Q どのように読みますか？

おおよそ4人中3人が「全部の記事に目を通す」と回答くださいました。これからも皆様に興味を持って読んでいただける紙面づくりを心掛けてまいります。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。





赤い羽根共同募金

町に愛を。胸に羽根を



毎年、足立区民生・児童委員協議会では、区内の駅19カ所で募金活動を行っています。今年は10月3日（月）に実施されました。



▲小さなお子さんも協力してくれました

担当の西新井駅西口は近年利用者の流れが変わりました。駅近くのマンションが増加する一方で、バスターミナルでは、日暮里舎人ライナーやコミュニティバスなどの交通機関の多様化に伴い、乗降客が以前より減

募金総額 1,334,439 円

少ししました。

駅のコンコースなどでは以前にも増して規制があり、駅ビル内店舗の妨げにならぬように、声掛けなど配慮しながら行っています。他の地区でも同様のご苦労があると思います。

「じぶんの町を良くするしくみ」として地域の課題解決を応援するための大切な資金となるのが、この共同募金です。

皆さまの思いやりある募金が活かされますようお願いしております。

(13地区 坂井潤子 記)



こんなことがありました

10年以上前の夏、その方は束ねた銀髪を後頭部に丸くまとめ凛とした立ち居振る舞いで、「担当地域に引っ越してきてお世話になります」と挨拶に来ました。

それから時々伺い、戦時中は大連の日本領事館に勤務、弟妹に仕送りし、最後はその語学力を生かして製薬会社会長宅に83歳まで勤めたと聞きました。積極的に社会参加をし、体力作りも心掛け、自立に努力する姿は私の目指す老後でした。

95歳を過ぎた頃からか通院が頻繁になり、ヘルパーやおはよう訪問等提案したのですが、受け入れても

らえませんでした。その後疾病の上栄養失調が重なって2カ月の入院となりました。入院中に郷里のご弟妹がいらして連れて帰るという提案があり、心からほっとしたのですが、彼女は幽閉されると拒否しました。

以前から受け入れる人間が限られていたのですが、私もドアを開けてもらえなくなり、夜の点灯のみが安否確認となりました。3日間灯りがつかず緊急通報したのですが、退院することはありませんでした。「対応はあれで良かったのだろうか？」今も自問しています。

(6地区 田中礼子 記)

シリーズ「災害に備える」 2

熊本県に平成28年4月14日（前震）16日（本震）最大震度7の地震が発生、「熊本地震」と命名されました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げます。そして怪我をされた方、家屋を失った方へお見舞い申し上げます。この地域は大きな地震が発生する確率の低い地域となっていました。しかし地震は発生しました。このようなことを考えますと、私たちの地域にいつ起こっても不思議ではありません。地震

に対する備えを忘れてはいけません。

大地震が東京に発生した場合、地方と違って被災者が多く出ると考えられます。私たち民生・児童委員も我が身の事で、手いっぱいになると思います。大地震の後には大きな余震も多数発生するでしょう。身の安全を第一に考えて、地域の皆様と協力し行動することが大切だと思います。

(東綾瀬地区 山崎秀夫 記)



町会自治会「地域を訪ねて」 シリーズ5 興野北町会

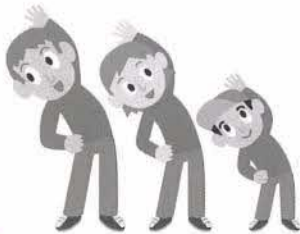


興野北町会は、近くに西新井大師があり、現在の加入世帯は、1,383世帯で区内町会自治会の中でも大きな町会です。約80年の歴史をきざみ、先人たちが築いた町会です。西新井小学校の校歌にも「興野」と言う名が出てくる愛着のある地名です。

昔は、住居表示が「興野町」というひとつの名称で

したが、今は西新井本町、西新井栄町、興野になりました。

町会組織は1班から8班までの構成で、班長・副班長・理事が日々会員と共に



活動しています。

平成27年度から現行の体制になり、役員も若返りました。現在は区の孤立ゼロプロジェクトをはじめ、各種の行事に進んで参加し、ひとつずつ各会員の意見を聞きながら、一から積み上げて活動をしていきたいと思っています。

今後の課題としては、総世帯数3,216世帯中、町会未加入世帯が1,833世帯、加入率が43%となっていることです。区内の平均加入率(54.8%)まで伸ばすため、加入の勧誘をして行きたいと考えています。

※世帯数等は平成28年4月1日現在
(興野北町会会長 早川元康 記)

7月6日 座談会『広報委員会退任者に聞く』

今期で広報委員を退任する皆さんに今までの思いを語って頂きました。

<良かったこと>

- ・他地区の情報を知り自地区の活動に生かした。
- ・「さくら」に愛着がわいた。同じ地区の方々に広報委員会の魅力をPRしてきました。
- ・校正を担当し、誤字、句読点、表現など勉強になりました。今後も「さくら」熟読します。
- ・新任で広報委員となり、民生・児童委員とは何かを委員会で学びました。
- ・その記事担当でなかったら出会えなかった方に巡り合い、知らなかった場所に行けた。
- ・月に一度委員会で会うのでコミュニケーションが深まり視野が広がりました。
- ・校正で寄せられた原稿を読み、区内の人々の様子、地域の歴史などの理解が深まりました。

<大変だったこと>

- ・委員会全体の流れを掴み、いつまでに何が必要か理解して、「可能な限り早く」すること。
- ・校正担当者に、共通の校正のルールを確立したこと。

記事内容の事実確認が大変でした。

- ・校正に正解はないので、意見が一致しない時悩みました。
- ・バックナンバーを参考に紙面をレイアウトしていくのですが、完成と思った傍からどんどん変わってしまうのが残念でした。
- ・毎月9時30分から開催なので、休まず遅れず参加することが大変でした。

<そのほか伝えたいこと>

- ・各地区の情報や身近な出来事を持ち寄って共有し、気楽に読める広報紙にして欲しい。
- ・記事は生き物、刻々と動き流れていきます。常にアンテナを張って、取捨選択を繰り返して行って下さい。
- ・足立区民生・児童委員協議会の広報紙であることを忘れないように。
- ・基本的なルールは守りながらも一期ごとに特徴があっても良いのでは。
- ・広報委員は大変と思われませんが、そんなことはありません、この楽しさをもっとPRして欲しい。
- ・民生・児童委員を、今期で退任します。最後の担当が広報で良かったです。

広報委員会は苦勞も多いですが、大きな経験も得られます。引き続き「素人集団」の応援をよろしくお願いします。

(6地区 田中礼子・8地区 森葉子 記)

▶ 広報委員会を退任する委員





不動産担保型生活資金（リバースモーゲージ）

高齢者が現在住んでいる自宅の土地建物（自己所有）を担保に生活資金を貸し付け、契約者の死亡後に担保物件を売却して一括返済する制度です。低所得の高齢者が住み慣れた自宅に住み続けながら、生活資金を得ることが可能で、近年注目されています。

厚生労働省は2002年12月より、都道府県社会福祉協議会が実施主体となる「長期生活支援資金」（後に「不動産担保型生活資金」に名称変更）を始めました。

一般世帯向けと要保護世帯（この制度を利用しなければ生活保護の受給が必要な世帯）向けとがあり、対象となる物件や連帯保証人の要否など要件が一部異なりますが、生活が厳しくても生活保護は絶対に受けたくないと無理をしている人へのアプローチも出来るのではないのでしょうか。

（10地区 渡邊進 記）

民生委員・児童委員発

災害時一人も見逃さない運動

ぶらり足立・舎人の歴史

舎人の地名について

皆さんは舎人を前から「とねり」と読めましたか？「しゃじん」と読んでいた方が多いと思います。

地名の由来については、諸説があり確実といわれる説は不明ですが、その中から何点かを紹介します。

有名なのが「舎人親王説」です。舎人親王は天武天皇の子で、奈良時代（720年）に古事記に次ぐ歴史書で日本書紀を編纂しました。この親王の子孫が理由が

あってこの地に流されて住んだため地名となったという説です。

次に聖徳太子が（600年代）甲斐の黒駒に乗り、飛んで当地にきました。土地の人は誰だか分からなかったが、付き人の舎人が太子であると言ったため、この地の名としたという説です。

他に江戸時代の地誌「新編武蔵国風土記稿」に、昔この地に舎人土佐守という人が住んでいたからこの地名になった。という説もあります。子孫に尾張（名古屋）徳川家の家臣があり当地の出身です。土佐守は永禄11年死亡（1568年・戦国時代）と書かれています。なお、舎人という地名が出てくるのは永禄5年（1562年）の文書が最初です。

舎人は足立区で一番古い村で、まだ分からないことがたくさん埋もれています。舎人に来て歴史を感じてみませんか。

（足立史談会役員 薊照夫 記）



▲舎人氷川神社本殿「八岐大蛇伝説」の彫刻

足立区は活動記録提出率 100% 継続中です



シリーズ 子どもたちはいま 4 足立区無料学習会（居場所を兼ねた学習支援事業）

「足立区無料学習会」は、足立区が区内在住の中学生を対象に昨年8月から区内北部地域で実施している無料の学習支援事業です。施設は足立区から委託され、特定非営利活動法人キッズドアが運営しています。

週6日午後8時まで開放し、学習の他、食事と居場所を提供しています。

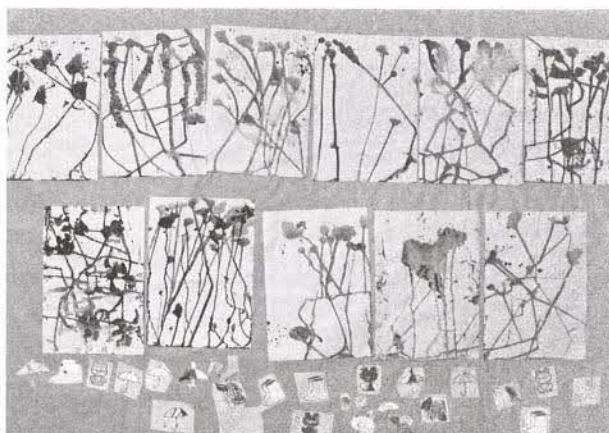
参加している生徒はひとり親家庭や生活保護世帯が多く、自宅での学習環境が整っていない生徒もいます。寄り添い、傾聴し、信頼関係づくりから始め、徐々に勉強の苦手意識克服や学習習慣を改善し定着するように指導しています。

学習は大学生などのボランティア講師によるマンツーマン指導です。学習の遅れを取り戻すための質問もできます。講師と生徒の年齢が近いため、ふれあいの中で大学進学やボランティア活動に興味を持つ生徒もいます。

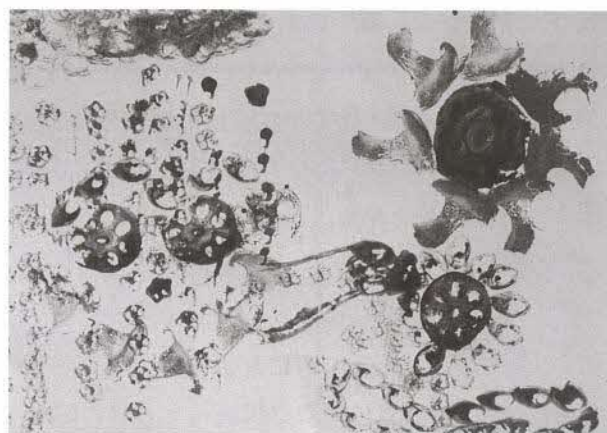
勉強だけでなく進学情報や社会性を身に付けられるとともに、まずは継続して通えるような施設づくりを意識して運営しています。

（特定非営利活動法人キッズドア 土井清子 記）

※足立区では、居場所を兼ねた学習支援事業を、平成28年10月現在、区内3カ所で実施しています。



千寿常東小 なかよし学級 11名



千寿桜小 5年 久保佑騎 作 「花の水やりをする雨男」

○小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。

中学生俳句コーナー

第十二中学校

流星群	いつになっても	星降らず	一年	今井慎太郎
風鈴の	音も聞こえない	猛暑の日	一年	増田 凜
緑側の	見上げた空に	星の滝	一年	山口理央奈
五つの輪	四年に一度	繋がる輪	一年	福田 千紘
蒼空に	ひらひらと舞う	桜雨	二年	吉田 美華
セミの声	聞こえて始まる	僕の夏	二年	増田 智輝
春の風	桜舞い散り	踊っている	二年	小林 佳子
夜の空に	輝く夏の	贈り物	二年	赤澤 紗羽



【追悼】前区長 鈴木恒年氏 逝去（平成28年10月4日）



鈴木様は、昭和24年の足立区役所入所以来、区政の発展に貢献し、社会教育部長、区議会議務局長、総務部長、助役等を歴任されました。

足立区長として平成11年に初当選以来、2期8年にわたり区内の産業振興や高齢者・障害者の福祉の向上など足立区の発展のために尽力され、平成26年3月までは第七代社会福祉協議会会長として、区職員、区長、社会福祉協議会会長として通算62年間もご活躍されました。

区長在任中には、「つくばエクスプレス」、「日暮里・舎人ライナー」の新線を開業させるとともに、「北千

住駅西口地区市街地再開発事業」の完成とシアター1010を開設されました。

さらに、竹ノ塚駅付近の鉄道高架化は、平成17年3月の踏切事故発生直後から都・国に対して協力要請活動を行い、早期実現のため都内初の区施工による連続立体交差事業を英断。これらの取り組みが実り、異例の早さで事業が認可され、本年5月には1本目となる下り急行線の高架橋が完成いたしました。

鈴木様におかれましては、このような数々のご功績が認められ、平成22年には、旭日双光章受章の栄に浴せております。

鈴木恒年様のご生前のご偉業をたたえ、ここに衷心よりご冥福をお祈り申し上げ、追悼の言葉といたします。

（足立区社会福祉協議会会長 中田貢弘 記）

【追悼】「カサブランカに囲まれて」 竹の塚地区 飯泉節子会長



新緑の美しい5月19日、竹の塚地区飯泉節子会長には72年のご生涯を閉じられました。困っている人々の声に耳を傾け、とことん相談に乗る。保護司もされ、33年の民生・児童委員活動の中で数多くの功績を残されました。金子みすゞを愛し、「みんな

ちがってみんないい」がモットー。委員一人ひとりに対しても事情をふまえ柔軟に対応してくださる、お洒落で包容力のある方でした。大好きなカサブランカに包まれて天国に旅立って行かれました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。どうぞこれからも地区の活動をお守りください。

合掌

（竹の塚地区 小島千恵子 記）

<訃報> 第五合同 江新地区 五十畑 重雄（イソハタ シゲオ）委員 逝去 ここに謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

ある人の言葉です。「人の為と書いて偽になる」広報委員として9年間の活動を終え、この言葉をしみじみ実感しています。

振り返れば、大変なこともあった気がします。が、

みんなといっしょに考え、話し合い、作り上げる為に費やした時間は、人の為ではなく、自分にとってこそ最も良い時間だったと思います。

（9地区 秋本雅信 記）

○皆様の原稿を募集いたします（原稿は未発表のものに限ります）。次号発行予定日 平成29年3月1日
原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広報委員会

委員長 秋本雅信	副委員長 藪下奈穂美	書記 鶴田晴久	会計 金子みどり	編集 小島千恵子	田中礼子	レイアウト 木内信雄	齋藤祐子	校正 江川明美	森葉子	編集委員 山崎秀夫	渡邊進	福原稔	坂井潤子	丸山まさ子	鈴木恒雄	校正委員 秋葉千秋	山本滝子	櫻井春子	志賀口博人	福岡佳須子	戸張光子	西野いちよ	高橋和枝
-------------	---------------	------------	-------------	-------------	------	---------------	------	------------	-----	--------------	-----	-----	------	-------	------	--------------	------	------	-------	-------	------	-------	------